

1. 科目名 (単位 数)	社会病理 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2304
2. 授業担当教員	高木 俊彦		
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究、同結果プレゼンテーション、学生 との応答	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。 （1）社会病理とは何か、（2）社会病理の発生・形成過程、（3）社会生活に及ぼす影響等について、具体的 には、犯罪や非行の問題、いじめや自殺（自死）の問題、格差社会の進展とワーキングプアの問題、青少年 のモラトリアムや引き篋もりの問題、児童虐待や男女間のDVの問題、少子・高齢化がもたらす問題、福祉 の施設化の問題、性の商品化の問題、カルト集団の問題など、新旧さまざまな「社会病理現象」を、主とし て社会学、さらに心理学や社会心理学の知見を踏まえて解説していく。 これらの問題、病理の内容に応じてグループ研究などを実施し、受講生自らが主体的にそれらの社会病理 現象を調査・考察、その打開策を模索していくという参加型の授業形態を採る。 個々の病理現象の臨床的考察から、その社会的背景の分析、実践的対応の提示まで、社会病理学への要請 に応える授業内容とする。		
8. 学習目標	1 さまざまな社会病理について理解し、説明することができるようになる。 2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明することができるようにな る。 3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになる。 4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・ 機能について理解し、説明することが説明できるようになる。 5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになる。		
9. アサインメント （宿題）及びレポ ート課題	1 予め個人又はグループ毎にテーマを与え、調査研究をし、発表の準備作業をする。 2 調査研究の結果をレポートにまとめ、資料として配付或いはパワーポイントを用いるなどして、各個人 又はグループごとにプレゼンテーションをする。 3 第15回の授業において、各自が自ら選んだ病理を中心にその解決策等についてグループ討議をする。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】講師作成の資料 【参考書】 日本社会病理学会監修 高原正興・矢島正見編著『関係性の社会病理』学文社、2016 年。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1 さまざまな社会病理について理解し、説明することができるようになったか。 2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明することができるようになっ たか。 3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになったか。 4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機 能について理解し、説明することが説明できるようになったか。 5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになったか。 ○評定の方法 1 授業中の態度・授業（個人又はグループ研究・発表）への参加度（40%）、 2 レポート提出・小テスト （60%）を総合して行う。受講生が多い場合は期末試験を行い、その結果を加味する		
12. 受講生への メッセージ	1 常に新聞・テレビ・インターネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会病理現象と思われる問 題について、その社会学的、心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的態度で受講されたいこと。 2 授業に集中すること。特に対面授業の場合、私語、携帯・スマホのON、ゲーム、飲食、中抜けなど授業 の支障となる行為をする者は受講を遠慮願いたい。		
13. オフィスアワー	初回の授業開始時（初回授業）に担当教員からお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション —社会病理とは何か（受講生の所感等も踏まえグループ 討議）—	事前学習	各受講生1例ずつ現在の「社会病理」につい て調べておく。
		事後学習	個人又はグループごとに、担当する社会病理 の各テーマにつき、調査・研究・取りまとめ の計画を立てる。
第2回	犯罪と非行、犯罪集団の社会病理 （講師によるモデル発表と講義）	事前学習	犯罪と非行に関する情報、関係知識の事前収 集。
		事後学習	「犯罪と非行、犯罪集団の社会病理」につい ての講師の発表から学んだものを学習ノー トにまとめ、各人、各グループの準備作業に 役立てる。
第3回	自殺（自死）の社会病理	事前学習	「自殺（自死）の社会病理」の担当希望者は その発表準備。その他のメンバーは本テーマ に関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループによる発表内容と、そ の後の教員のコメント・講義等から学んだも のを、学習ノートにまとめる。

第 4 回	モラトリアムと引き篭もりをめぐる社会病理	事前学習	「モラトリアムと引き篭もりをめぐる社会病理」の担当希望者はその発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループによる発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 5 回	児童虐待といじめの社会病理	事前学習	「児童虐待といじめの社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 6 回	男女間DV、ストーカーの社会病理	事前学習	「男女間DV、ストーカーの社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 7 回	性の商品化をめぐる社会病理	事前学習	「性の商品化をめぐる社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 8 回	カルト集団をめぐる社会病理	事前学習	「カルト集団をめぐる社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 9 回	格差社会とワーキング・プアの社会病理	事前学習	「格差社会とワーキング・プアの社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 10 回	少子・高齢化がもたらす社会病理	事前学習	「少子・高齢化がもたらす社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 11 回	情報化社会、IT 社会の社会病理	事前学習	「情報化社会、IT 社会の社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 12 回	都市化がもたらす社会病理	事前学習	「都市化がもたらす社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 13 回	民主主義とポピュリズムの社会病理 I	事前学習	「民主主義とポピュリズムの社会病理」の担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 14 回	民主主義とポピュリズムの社会病理 II (選挙制度と若者の投票行動)	事前学習	「我が国の選挙制度と若者の投票行動をめぐる社会病理」担当希望者は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。

		事後学習	担当個人又はグループの発表内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 15 回	まとめ（社会病理の改善・解決方策についてグループ討議とその結果発表）	事前学習	これまでの各社会病理に関する発表内容の結果、作成した学習ノートの内容を整理しておく。
		事後学習	社会病理の改善・解決方策について話し合い、その結果を学習ノートにまとめる。
期末試験 (全面対面授業となった場合は期末試験を実施。併用授業又はオンライン授業の場合は課題レポート等で代替)			